

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494000068	事業の開始年月日	平成20年4月1日
		指定年月日	平成20年4月1日
法人名	特定非営利活動法人 くぬぎと檜		
事業所名	グループホーム柿の木		
所在地	(259-1141) 神奈川県伊勢原市上粕屋1040		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年3月11日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一人ひとりを大切に」「生き生きと生活できるようにする」を合言葉に、家庭的な雰囲気、いつでも相談できるやさしさ、気づかいのできる介護を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月25日	評価機関 評価決定日	平成27年9月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 <p>この事業所は、小田急小田原線伊勢原駅からバスで10分、バス停からなだらかな坂道を歩いて10分程の所にある。周囲は畑や雑木林が点在するのどかな環境で、訪問時はウグイスのさえずりが聞こえていた。牧場の跡地である広大な敷地内には、数百年という樹齢を重ねた栲や檜、柿の木があり、法人、事業所の名称の由来となっている。建物は、耐火鉄骨コンクリート造りの2階建てで、屋上からは丹沢の山々が一望できる。バリアフリー構造の室内は、居間、浴室、トイレなどの共用空間、個々の居室もゆったりとしたスペースがある。 昨年からは、前管理者がケアマネジャーに専念し、理事長が管理者を兼務する体制となっている。</p>
【運営推進会議をサービスの向上に活かす取り組み】 <p>運営推進会議の中で、利用者について「体重の変化が大きい、外見は変わらないように見える」との指摘があった。事業所でその原因を探ったところ、測定の方法に不具合があったことがわかった。そこで、改めて職員に記録の必要性を説き、書き方や読み取り方を指導してサービスの向上に活かしている。また、立位の取れない利用者の体重測定が困難で、正確性を欠くことが多いことから、車いすに乗ったまま測定できる機器を購入した。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム柿の木
ユニット名	こすもす

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の個性と人格を尊重し、個々の能力が発揮できるよう取り組んでいる。	理念は、昨年の管理者の交代時に、職員間の共有を促進するため、7項目あった理念を、柱となっていた1番目の項目にしぼり簡潔にした。玄関に掲示し、今後は申し送り時に唱和する予定である。「柿の木という家庭を築いていく」という理念を反映し、日頃から利用者の話を傾聴し、家族のように接するよう心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りに歌謡ショー・太鼓・小学生楽器演奏・中学生ボランティアの方がこられている。	地域の祭礼などには、利用者とともに出かけている。事業所の夏祭りは、チラシを自治会長や民生委員に配っている。職員の紹介で、地域の小学生が来訪し、楽器演奏をしたり、模擬店の手伝いなどを行っている。利用者だけでなく、子供たちも楽しみにしている恒例の行事となっている。生活支援ボランティアが週に2、3回来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等受けた時は、支援策などをお話したいと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動報告するとともに、問題点などについての助言を受け、改善・サービス向上に反映するようにしている。	運営推進会議は、年6回開催している。事業所の活動や事故、職員の異動などを報告して、意見や助言を受けている。参加した家族から、「体重の変化が大きい」との指摘を受け、測定の方法に不具合があったことがわかり、車いすに乗ったまま測定できる機器を購入した。管理者は、記録の必要性、書き方や読み取り方について、改めて指導し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席をお願いし、事業所の現状報告をしている。	市介護高齢福祉課の担当者が、運営推進会議に参加し、情報を共有している。生活福祉課とも、連絡や相談を通して連携を密にしている。日本認知症グループホーム協会に参加して、センター方式についての研修会に参加したり、情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りでの対応に努めている。	身体拘束をしないケアを指針として、「身体拘束ゼロの手引き」をマニュアルにしている。これまでは防犯上の理由から、玄関の施錠を常態化していたが、現在は、9時から17時までの時間帯には鍵をかけず、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	態度・言葉遣いにも気を付け、虐待行為がない様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できるよう支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は文書にて説明をし、理解・納得を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見・要望・問題点に速やかに対応できるようにしている。	運営推進会議や家族の面会時に、利用者の日頃の暮らしぶりや、職員が感じたことを伝え、意見や要望を聞いている。利用者の体調に変化があった場合も、速やかに家族へ連絡している。家族会を作ってほしいとの要望があったが、望まないという意見も多く、事業所側からの積極的な働きかけは控えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議・連絡ノート等にて職員の意見や提案を聞き業務やケアに反映させている。	職員の意見は、申し送り時や3ヶ月ごとのカンファレンス・ユニット会議で聞いている。利用者のケアに関する意見は、業務や介護計画に反映している。今年度の外部評価は、職員からの意見を参考にして自己評価を作成した。管理者は、日頃から職員と雑談を通してコミュニケーションを図り、意見を引き出すようにしている。	昨年度の目標達成計画に「職員面接を行う」ことが挙げられていますが、1名が終わった時点で中断しています。管理者が代わった時期でもありませんので、この目標を継続し、職員全員の意見を聞く機会を設けることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの契約時間内で、無理のないような勤務ができるよう休みの調整をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧し、受講する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会への参加の機会を作ってはいるがなかなか参加できていない。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを受け止め、安心して生活していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどこまで対応できるかを話し合い、ご家族との信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握・確認し可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様」というより、日々あっているせいか、仲間・家族のように思っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子・状況を伝えるとともに、職員が接していると感じることを伝え、ご家族の思いも伺っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人たちが気軽に訪問できるような雰囲気作りを心がけている。ご家族や友人と外出したり、ご本人の希望により電話をしたり、手紙を出したりしている。	友人や親戚が訪れた時には、お茶の接待をして歓迎している。時には、ケアマネジャーが会話に加わることもある。利用者によっては、友人と外出したり、家族と墓参りに出かけたりしている。信仰している宗教の関係者も来訪している。利用者が話していた飲食店と一緒に出かけ、料理の持ち帰りをしたこともあった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食後の時間等を利用し、利用者同士の関わり合いを深められるようにスタッフも間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの行事の案内を送付したり、転院された方のお見舞いに行ったりしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族からだけでなく、縁者や多方面の関係者からの情報を得るようにし、本人の意思に沿うようにしている。	入居時のアセスメントで思いや意向を聞いている。日々の会話を大切にして、意向を話してもらえるような問いかけをしている。利用者の言葉や職員の気づきは、ケース記録に記入し、職員間で共有している。意向の把握が困難な場合は、家族や関係者からの情報を参考にして、利用者本位に考え、思いを推し測っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャ・ソーシャルワーカーからの情報を伝えて貰えるような関係づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や変化などは記録し、スタッフが情報を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、あるいは利用者の状況に変化があったときプランの見直しを行っている。	介護計画は、利用者、家族の希望を踏まえ、職員の意見を参考にして作成している。必要な場合は、医師にも意見を聞いている。毎月、ケアマネジャーと職員がモニタリングを行い、3ヶ月毎のカンファレンスで計画の見直しをしている。利用者の状況に変化があった場合は、臨機応変に見直しをして、現状に合った介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の生活記録を用意して、日常生活の様子、食事摂取・水分摂取・排泄状況・身体状況などを記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り柔軟な対応に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて地域の方との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の定期的往診を受けたり、ご家族とともに今までのかかりつけ医に受診したりしている。マッサージや歯科・眼科の往診もある。	事業所協力医が、月に2回訪問診療に来ている。訪問看護師は、毎週来訪して、利用者の健康管理や職員からの相談に当たっている。受診結果は、「受診・往診記録」に記入している。歯科は2か所の医療機関と契約し、希望する利用者が、口腔ケアと治療を受けている。医師からの指示のあった利用者は、週3回の訪問マッサージを利用している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護との契約をしており、個々の利用者の性格・生活歴も把握していて、週1回の訪問時には気軽に相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者には必要な情報を提供し、できるだけ早期に退院できるよう医療機関と連絡を取り合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、本人・ご家族の意向を踏まえ、事業所・主治医とその時に合わせた話し合いをしていく。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、同意を得ている。新たに、「看取り介護・医療の同意書」を作成し、重度化や終末期に向けた方針の共有を図っている。医療機関、家族と話し合い、職員体制などを見極めながら、希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は訓練はまだ行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間の火災を想定しての訓練は行っているが、夜間の訓練についてはまだ行っていない。	昨年の10月に避難訓練を行っている。その際には、水消火器を使い、消火方法の確認もしている。今年度は、職員の災害時緊急連絡網を整備した。1階の階段下に、飲料水、乾パンなどを備蓄しているが、期限切れを迎え、現在は、入れ替えをしている。	昨年からの目標達成項目でもある「年に2回の避難訓練」を実施されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の個性に合わせた声掛けや肯定的な会話を心掛けています。	利用者に理解しやすい話し方をしよう心がけているが、言葉や態度は馴れ馴れしくならないよう注意している。研修は行っていないが、管理者が人格の尊重やプライバシーの保護について、申し送り時や日々のケアの場面で指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方からは思っていることを聞くようにしています。そうでない方からは会話の中から思いや希望を聞き出せるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、その人の希望や意思に沿うような支援を心掛けていますが、外出については希望に添えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度の訪問美容師を利用し、カットをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭きを職員とsつ所に行っています。	献立付きの食材を業者に委託し、職員が調理している。利用者は、職員の声かけに応じて、食器やテーブル拭きを行っている。食前に口腔体操を行い、全員に配膳をした後に献立の説明をしている。料理を見て、においを感じてもらうことで、五感を刺激し、自ら箸を手に取り、口に運ぶ動作が自然にできるようにしている。寿司の出前、ファミリーレストランでの外食、月に1回の行事食を楽しむ機会がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算をされた食材を使用しているため、栄養バランスは取れています。食事量・水分量を記録し、摂取量が少ないときには声掛けをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に見守り・介助で口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間・量を記録し、把握した上でトイレ誘導をするようにしています。	排泄チェック表を活用し、利用者ごとの排泄パターンを把握している。1階は定時での声かけを行い、2階は、タイミングを見計らった誘導をしている。どちらのユニットも、トイレに座ってもらう時間を設けている。おむつやリハビリパンツ、ポータブルトイレは、時間帯や利用者の体調に合わせて使い分けをしている。トイレは4ヶ所あり、その内の1つは浴室内にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録をもとに、水分調整をしたり、服薬をして排便を促すようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、強引に勧めることなく、声掛けの仕方や時間をずらしたりして気持ちよく入浴しています。	入浴は、週2回を原則としている。時間帯は、朝から午後まで幅広く設定している。入浴を好まない利用者には、「お風呂」という単語は使わずに、トイレで席を立ったついでに誘うなど、利用者がストレスを感じることなく、スムーズに入浴できるよう支援している。1階の浴室は、3方向から介助できる浴槽になっており、バスボードも設置され、安全で負担なく入浴できるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、その人に合った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしてある。変化・変更があった時は、申し送りノートで周知するよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑誌を読んだり、テレビを見たり、洗濯物たたみや食事の準備・片づけなど、楽しみや役割を見出せるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、買い物や外出に行くことがあります。天気の良い日には、散歩に行き、無人販売で野菜や花の購入をすることがあります。	天気の良い日は、車いすの利用者も一緒に、30分程度の散歩に出かけている。散歩に行かない利用者も、屋上やウッドデッキで外気浴をして気分転換を図っている。行事としての外出は、初詣やイチゴ狩り、花菜ガーデンでのお花見などに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安な方は、家族と相談の上所持されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、ホームの電話を使い、電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節や湿度調節はこまめに行っている。壁面には利用者の作品や季節に合わせて飾付けをしている。	居間・食堂は、明るく広々としている。テレビの前には、全員が着席できるソファを置いている。訪問時は、利用者同士で仲良くおしゃべりをしたり、うとうとと昼寝をしたりと、それぞれに好きな場所で寛いでいる様子が見られた。屋上やウッドデッキからは、丹沢山塊の山々が見渡せる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを置き、気に入った場所でゆっくり過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだものを持ってきていただき、居心地のよい空間を作っている。	居室は、和室、洋室と二つのタイプがあり、どちらもエアコン、カーテン、クローゼットが備え付けになっている。利用者は、使い慣れたタンスや家族の写真などを持ち込んでいる。どの居室も、こざっぱりと整頓され、掃除は職員と利用者が一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の入口に氏名の表示をしている。廊下やトイレ・洗面台など共有部分には手すりを付けてある。		

目 標 達 成 計 画



事業所名

グループホーム 柿の木

作成日

平成28年2月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	運営に関する職員意見の反映	毎月数名づつ、面談をする。	給与明細を直接手渡しし、その際、意見や要望を聞くようにする。	通年
2	35	災害対策	夜間を想定した避難訓練をする。	日中に、職員一人での避難誘導・職員への応援要請の仕方を確認する。	春・秋の火災予防運動期間に実施する
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。